

Asia Medical Massage
Instructors Network

第2回AMINラオス講習会
報告書

期間：平成 20 年 3 月 23 日～29 日

AMIN推進委員会担当者名

加藤宏

派遣者名

1	形井秀一(AMIN推進委員会)	
2	加藤宏(AMIN推進委員会)	
3	窪田清和(福井県立盲学校)	
4	前田茂伸(福井県立盲学校)	
5	武藤実樹(茨城県立盲学校)	
6	齊藤竹延(AMIN事務局)	

開催時期

2008年3月24日～3月28日

現地主催団体名

名称:LAO Association of the Blind(L.A.B)ラオス盲人協会
 住所:217/05Unit 14 Nongbon,Xaysettha,Vientiane Capital,Laos
 TEL:+85621-414949 +85620-525550
 FAX:+85621-414949
 E-mail:lab.vt@hotmail.com

日本派遣者宿泊地・講習会開催地

Lao Plaza Hotel Vientiane
 住所:63 Samsenthai Road, Vientiane, Lao P.D.R
 TEL:856-21-218800 FAX:856-21-218808

通訳者(ラオス語-日本語)

	氏名	性別	
1	Mr.Khamla Vilay	男	
2	Mr.Panya Chanthavong	男	
3	Mr.Phonekeo Chanmaly	男	

ラオススタッフ

	氏名	性別	所属
1	Ms.Kongkeo Tounalom	女	ラオス盲人協会
2	Ms.Sibanh Khoukham	女	ラオス盲人協会
3	Ms.Somphavanh Sitthidet	女	ラオス盲人協会

受講参加予定者

	氏名	性別	視力障害程度 (弱視・強度弱視・全盲)	マッサージ歴 (年)
1	Mr.Siphai Khiemsounthone シーファイ	男	弱視	11
2	Mr.Vongsak Soneseng ウォンサク	男	弱視	4
3	Mr.Thongdy Xanasone トンディー	男	全盲	7
4	Mr.Monekham Bounluexay モンカム	男	弱視	3
5	Mr.Vongsouvanh Souththitham ヴォンスーヴァン	男	全盲	3
6	Ms.Keo Bolibouth ケオ	女	弱視	7
7	Ms.Chanthy Luangphan チャンティー	女	弱視	8
8	Mr.Savatdy Vichith サヴァディー	男	弱視	1
9	Ms.Bay Phonesavanh ベイ	女	弱視	1.5
10	Ms.Souksakhone Meuandouang スウクサーコーン	女	弱視	<1

AMIN事務局連絡先(携帯)

+81-80-1136-8818

第2回AMINラオス海外講習会日程表

講習会班：加藤、武藤、前田、窪田、齊藤

2008/3/23(日)	第0日目	
国内事前打ち合わせ・宿泊先（武藤・窪田・前田・齊藤）ホリデイ・イン東武成田		
2008/3/24(月)	第1日目 移動日	
10:45(発)～15:45(着)	成田ーバンコック（出国）（乗継）	
3時間05分	前日打合わせ：AMIN・BMIN（空港内）	
18:50(発)～20:10(着)	バンコックービエンチャン	
2008/3/25(火)	第2日目 視察 学校・政府（ビエンチャン）	
09:00～12:00(180分)	前日打合わせ（全体） 現地スタッフ・AMIN・BMIN 搬入品等の確認	
12:00～13:00(60分)	昼食	
13:00～17:00(240分)	視察・会談・表敬	
2008/3/26(水)	第3日目 セミナー第1日	
09:00～09:30(30分)	開講式	
	代表挨拶	Mr. 形井秀一
	ラオス盲人協会代表挨拶	Ms. コンケオ
	来賓挨拶	
09:30～10:30(60分)	医療按摩評価：知識	
10:30～10:40(10分)	休憩	
10:40～13:00(140分)	医療按摩評価：実技	
13:00～14:00(60分)	昼食	
14:00～15:30(90分)	医療按摩講習	
15:30～15:40(10分)	休憩	
15:40～17:10(90分)	医療按摩講習	
2008/3/27(木)	第4日目 セミナー第2日	
09:00～10:30(90分)	医療按摩講習	
10:30～10:40(10分)	休憩	
10:40～12:10(90分)	医療按摩講習	
12:10～13:00(50分)	昼食	
13:00～14:30(90分)	医療按摩講習	
14:30～14:40(10分)	休憩	
14:40～16:10(90分)	医療按摩講習	
16:10～17:00(50分)	質疑応答	
2008/3/28(金)	第5日目 セミナー第3日 ラオス出国	
09:00～11:00(120分)	医療按摩実技	
11:00～11:10(10分)	閉講式準備	
11:10～11:40(30分)	閉講式	
	ラオス盲人協会代表挨拶	Ms. コンケオ
	来賓挨拶	
	修了証授与	Mr. 形井秀一
	来賓挨拶	
	修了証授与	
11:40～12:40(60分)	評価会議（昼食）	
12:40～13:40(60分)	空港移動	
16:30(発)～17:50(着)	ビエンチャンーバンコック（出国・乗継）	
4時間45分		
22:35(発)～06:15(着)	バンコックー成田（帰国）	
2008/3/29(土)	成田帰国	

宿泊先

ホリデイ・イン東武成田 3月23日

Lao Plaza Hotel Vientiane 3月24～27日

第2回AMINラオス海外講習会日程表

形井

2008/3/24(月)	第1日目 移動日	
10:45(発)~15:45(着)	成田-バンコック(出国)(乗継)	
3時間05分	前日打合わせ: AMIN・BMIN(空港内)	
18:50(発)~20:10(着)	バンコック-ビエンチャン	
2008/3/25(火)	第2日目 視察 学校・政府(ビエンチャン)	
09:00~12:00(180分)	前日打合わせ(全体) 現地スタッフ・AMIN・BMIN 搬入品等の確認	
12:00~13:00(60分)	昼食	
13:00~17:00(240分)	視察・会談・表敬	
2008/3/26(水)	第3日目 セミナー第1日	
09:00~09:30(30分)	開講式	
	代表挨拶	Mr. 形井秀一
	ラオス盲人協会代表挨拶	Ms. コンケオ
	来賓挨拶	
09:30~10:30(60分)	空港移動	
12:55(発)~14:15(着)	ビエンチャン-バンコック(形井)	
2008/3/27(木)	第4日目 セミナー第2日	
09:00~	ホテルロビー待合せ(タイ語-日本語)通訳	Mr. Kanchit
10:00~11:00	Foundation for the Employment Promotion of the Blind	
20:00(発)~21:10(着)	バンコック-ビエンチャン(形井)	
2008/3/28(金)	第5日目 セミナー第3日 ラオス出国	
09:00~11:00(120分)	医療按摩実技	
11:00~11:10(10分)	閉講式準備	
11:10~11:40(30分)	閉講式	
	ラオス盲人協会代表挨拶	Ms. コンケオ
	来賓挨拶	
	修了証授与	Mr. 形井秀一
	来賓挨拶	
	修了証授与	
11:40~12:40(60分)	評価会議(昼食)	
12:40~13:40(60分)	空港移動	
16:30(発)~17:50(着)	ビエンチャン-バンコック(出国・乗継)	
4時間45分		
22:35(発)~06:15(着)	バンコック-成田(帰国)	
2008/3/29(土)	成田帰国	

宿泊先

Lao Plaza Hotel Vientiane 3月24、25、~27日

CENTURY PARK HOTEL BANGKOK 3月26日

ペチャラト氏

携帯: 081-5559409

Foundation for the Employment Promotion of the Blind

住所: 2218/86 Chan Road, Yannawa, Bangkok 10120.

ラオス人民民主共和国視覚障害者支援報告

茨城県立盲学校 教諭 武藤実樹

1 各日ごとの研修内容:主に講義・実習の観点より

23日(日) 打ち合わせ

17時から19時まで日程の確認、背部・頸部の実技での術式の確認を行った。テキストを基本とするが、頸部では4線に別け縦状に揉み、背部での1線は棘突起の直側(棘筋)、2線は最長筋筋腹、3線は腸肋筋の外縁、また指使いでは肩甲骨間の脊柱起立筋各線は親指を縦状揉捏し、背部1線は縦状揉捏で第4仙椎正中仙骨稜直側まで行うようにした。頸部1線は後頭部項窩正中の棘突起上をC7まで、2線は天柱から頸の根元まで、3線は風池から根元までとし、4線は乳様突起後縁から頸椎の横突起の横を通り肩上部までのラインとした。今回参加者の中での前年度講習参加者は5名であり、今回参加者総数の半分である。実技指導での班別けは特に前回参加者を特別な班ではなく全員を混ぜた形で行うことのほうがよいだろうということになった。これは特別班の講義内容を特別に作り別グループと平行して行ってゆくのは指導者側の人数の問題、5人の受講生の日本按摩のレベルの違いがあると思われることによる。もし日本按摩の各手技がよく出来ている人の場合は、同じ班の人に教える立場になってもらうこととした。

24日(月) 移動日

10時45分成田発、タイ:バンコク経由(3時間待ち)ラオス:ビエンチャン着22時10分(日本時間0時10分)宿泊場所着11時(日本時間23時30分)

25日(火) 午前

ラオス盲人協会スタッフ、通訳と全体打ち合わせを行う。Ms. Kongkeo会長より『ラオスで行われている盲人マッサージの人達は解剖・生理学的な知識はあまりなくマッサージを行っている。各専門の点訳資料は少なく、自分でメモすることがほとんどである。昨年年第1回講習会で日本式マッサージを教えていただき、受講生からは『よかった』という意見が多かった。現在我々の予算で出来るところで、先生を招聘しマッサージ(タイ式)を教えている。タイ式を主体としたマッサージはできているので(参加者等)日本あん摩をさらに学ぶことで効率を上げればと考えている。具体的には力仕事の人にはラオス式タイマッサージ、事務などの人には日本式で行うなどである。明日からの研修要望として肩こりと腰痛についてどこに力をいれればよいか、どこに力を入れると危ないかを教えてほしい、ラオスでは腰痛の患者が多い。』会長の意見を大切に腰痛の講義・実習も行うこととした。今回初めてAMINとラオス盲人協会が直接連絡を取り合いながら開催することが出来る運びとなり直接的な意見交換や問題点などもすぐに話しあえる体制がとれるようになった感じを受けた。講師陣の要望もあり車で約10分のところにあるラオス盲人協会が運営するマッサージセンターを見学することができることとなった。見学後、講師3人が施術を受けた。各種圧迫法を主体としたタイ式マッサージの術式が丁寧に行われていて、だいたい1時間で約3ドルの料金であった。だいたい1時間というのは、こ

ちらではきっかり時間で区切らず、術式を一通り終えたところが終わりという感じで、ラオスの国柄が出ていると思いました。お客さんは平日の午前中(しかも日本の真夏の暑に近い)にもかかわらずこの地域の多くの人々が利用している様子が伺え、年齢層も20代から50代以上と幅広いことなどが判った。午後にリハビリテーションセンターを訪問しその中にある盲教育センターを見学した。点字資料を作成することはパソコンと点字プリンターを使用して行われていた。IT教育室としてネットに繋がった音声支援ソフト:ジョウズが入った生徒用パソコンが6台と教師用1台が配置してある環境で教育がなされている。現在はまだラオス語で直接文章を書け音声支援が対応するソフトが導入されていないようであった。このセンターは盲学校的な役割をしているが、盲人は点字の読み書きができれば一般の学校へ通うことが多く(ここへ来るのは時間がかかるため)、結果統合教育がなされていることの説明があった。

3月26日

9時より予定通り開校式が行われた。終了後、知識問題を行う意味を述べた後、30問の質問問題(巻末資料1)を行った。設問は私が声を出して設問し、解答は選択枝より選んでもらう形式を取った。参加者のほとんどが墨字を書くことは視力的に困難で、また点字を読んだり書いたりすることも難しいことから、このようなかたちで行うことが事前に判断された。問題8問目までは少し遅いペースであったが終えることが出来たが、問題9問から解剖学の専門用語の基礎を使用した設問になったこともあり、問題を読み上げた時点で混乱が生じた。例えば一般には肩甲骨という言葉はほとんど使用されていない状況で、肩関節に対する設問であるが、肩関節そのもののことがうまく理解されない状況であった。スタッフ一同で検討し、基礎知識を習得する機会を持たなかった人にこれ以上質問を継続することは無理があると判断され、問題を行うことはこれまでとしたが、26問以降の臨床問題については、受講生が毎日の施術の中で見受けることも多いと思われるので、実技解説の中でその内容を説明することとした。この後、直ぐに実技講習に入ることとしベッド5台を会場の中央へ配置し直した。日本あん摩の特徴として遠心性に行うこと、筋肉を個別に揉んでゆくこと、母指を1本だけで揉捏する手技を多く使用すること、手ぬぐいを被服にあてながら(頸などは皮膚に直接)行うことなどを説明した。午後、筋肉を診る指標点として骨の隆起が西洋医学の中で利用されていることを説明し、日本あん摩の肩、腕、背部などを揉む際に利用する骨隆起の触擦の方法を自身の体、骨模型、ペアーを組ませた相手方のそれぞれで指導した。次に僧帽筋の形を外後頭隆起、肩甲骨棘突起・肩峰、脊椎棘突起などを指標としてつかんでもらい、僧帽筋上部繊維、中部繊維などを収縮させて筋が収縮することを各自身とペアーの体で触擦してもらった。次に日本あん摩の代表手技である母指揉捏の方法をまず講師3人が手分けして受講生一人一人の肩上部にデモンストレーションを行い、坐位の状態を受講生各自身の右手親指を右大腿上部に置いてもらい一人一人に対して線上母指揉捏を指導し、少し理解できたところでペアーの肩上部揉捏を実習させた。17時30分より19時まで本日全体の評価会議を行った。知識問題について残りの問題について行うかどうか検討した。問題の専門的用語言葉等を優しく言い換えても

基礎知識を習得する機会がなかった人にとっては行う意味が少ないことで、今回の日程の中ではこれ以上知識問題は行わないこととした。臨床の問題については明日の解剖模型を使用してのなかで触れてゆくこととした。

27日(木) 午前

予定の9時より以前に受講生がすでに集まり一部の人達は手技の練習をしている姿が見られた。昨日の知識問題で予定より少し遅れ気味であったこともあり8時40分よりすぐに講義を始めた。全体で日本手ぬぐいを使用しての肩上部、頸部の復習後、3班に別かれて①骨模型を使用して骨では椎骨、肩甲骨、腸骨、仙骨について、神経では脊髄神経が椎骨の横から出ることの説明を質問を受けながら行った。②脊柱起立筋(腸肋筋、最長筋、棘筋)の形を脊柱棘突起、肋骨、腸骨稜などを指標に各班男子一人が上半身裸となり腹臥位で脊柱を伸展させ上記の各筋を触擦して確認することを指導した。③寝揉みで肩上部3線、脊柱起立筋2線を母指揉捏の手技で揉むことを指導した。同日午後は①肩こりに対する施術で斜角筋、胸鎖乳突筋、鎖骨下筋の触擦方法と揉み方(母指揉捏、二指揉捏、四指揉捏など)②腰痛に対する起立筋、正中仙骨稜直側、仙骨外縁、上後腸骨棘横から上前腸骨棘手前までの母指揉捏、膪盪揉捏などを一人一人に丁寧に指導した。17時20分より18時30分まで本日の評価会議を行った。人体全骨格、脊柱、肩関節のそれぞれの模型を使用しての解剖講座は大変好評であった。また多くの受講生より日本あん摩の部分ではなく全体の流れを是非体験してみたいという要望が出されたことを受けて、明日朝受講生が集まり次第直ぐに一人15分で頸、肩、上肢、背部を側臥位で講師3人で行うこととした。

28日(金) 午前

8時40分より前日打合わせた予定通り、講師3人で10人の受講生を日本式按摩で行った。私が担当した受講生は自分の手を私の術手を探り、どのような手の形で揉んでいるかを触手しながら熱心に観察・学習していた。10時15分より筋肉性腰痛に対する講義を行い、腰方形筋の筋触擦と揉む手技の方法(膪盪揉捏など)、仙骨外縁、上後腸骨棘外側から上前腸骨棘手前までのとらえ方と具体的な母指揉捏、を一人一人に丁寧に指導した。11時30分より閉校式、修了書授与が行われた。式中のラオス盲人協会代表 Konkeo 会長挨拶のなかで「背骨の構造を触れたことで、よりよい理解が出来た。ラオスの盲人にとって骨模型は大変よかった。10人の受講生のなかの Vongsouvanh Soutthitham さんは先天的視覚障害の全盲の方です、彼は今回骨模型を生まれて初めて触れて学習出来たことに大変感激していました。次回もし講習会をやっていただくときは骨に関することをもう少しやっていただければと思います」と述べられた。

おわりに

ラオスは全く初めての訪問国で、どのような国でどんな文化を持ち、どういった人々なのだろうかという気持ちをもったなかで、講習会の実習内容の準備を進めてきました。

実習講師3人で内容を検討し、私が講義実習班長ということで講習内容をまとめました。

頸、肩、上肢については頸の痛み、肩こりを中心に用意した内容の半分位の実習が出来ました。腰痛については予定には入っていませんでしたが、現地の強い要望があり後半の実習で行うことができ、少しは要望に応える事が出来たと思います。腰痛はいろいろな原因で起こることがあるので、もし次回継続講習会があれば、骨の継続と併にお伝え出来ればと思います。受講生の方々は50歳前後の方も数名いらっしゃいました、またその日の講習会が終了して自宅に帰った夜にお客さんを施術する方もいらっしゃいました。その受講生が翌日の講習会で「昨日習得した手技で行ったら大変お客さんから喜ばれました」という事を聞いて、とても嬉しく思いました。肩こり、肩関節疾患、腰痛のお客さんが多いことを聞き、気候・食べ物などが大きく違ってもこれらの疾患は日本同様であることを知り、これらの疾患にたいする細かい手技を持っている日本按摩はこの国でも役立つところはあるだろうと思いました。仏教が盛んな国のこともあると思いますが、人を敬う心、純朴さ、などを受講生以外の人々からも感じ取り、日本では少し失いかけている面を学ばせて頂きました。本講習会に講師として参加出来たことを感謝するとともに、人に教えるという基本的な姿勢を違った角度から自分を見つめることが出来き、これらのことを新学期からの自分の仕事のなかに少しでも取り入れてゆきたいと思っています。

ラオスマッサージセミナーに参加して

福井県立盲学校 教諭 前田茂伸

ラオス人民民主共和国は、人口 650 万人で、東南アジアの内陸国。北西のミャンマーと中華人民共和国、東のベトナム、南のカンボジア、西のタイの 5 カ国と国境を接しています。AMIN ラオスマッサージセミナーに参加しての印象を書きたいと思います。

2008 年 3 月 23 日夕方、AMIN 事務局の齊藤さん、茨城盲学校の武藤先生、福井盲の窪田先生と前田は、成田空港近くのホテルに集合しました。まずは、日程確認と、セミナーでの実技指導の内容に関する事前打ち合わせです。頸肩背部・腕が今回の指導内容です。AMIN テキストの実技手順を元に、各先生方と手技の方法や施術部位についての詳細を確認しました。

24 日 7 時半、ホテルを出発し、成田空港へ向かいました。技大の形井先生、加藤先生と合流し、10 時 45 分タイ国際航空でバンコクへ向かいました。7 時間のフライトを終えタラップを下ると、そこには真夏の空気が私たちを待ちかまえていました。着ていたジャケットやシャツを脱いで T シャツで丁度です。ラオス・ビエンチャンへのフライトまでは約 3 時間、全員での打ち合わせの後、タイ料理を少し味わいました。さすが南国の料理、辛いものは気にならない私も、かなりスパイスの作用で汗をかくことになりました。ラオス航空のプロペラ機で 1 時間半、夜 9 時頃(日本時間の 23 時頃)、今回のセミナー会場・宿泊先となるラオプラザホテルへ到着しました。

25 日午前は、ラオス盲人協会の人たちとの打ち合わせです。予定の頸肩背部に加えて、腰痛に対する治療法の要望が出されました。ラオスでは、農業や林業などの従事者が多いため、マッサージ臨床で腰痛患者さんに接することが多いそうです。

その後、盲人協会の会員が行っているマッサージ店でマッサージを受けることになりました。約 1 時間半で 4 米ドルです。フロアに毛布と枕があり、仰臥位で足からの治療が始まりました。タイ式マッサージは、皆さんご存知のように、圧迫法と運動法が中心です。私のマッサージを担当してくれた青年は、マッサージを始めて 1 年が経過したばかりとのことでしたが、リズムカルな刺激に前日の移動疲れがどんどん癒されていきました。ほとんど休みの日はなく、1 日数人の患者さんを治療するそうです。後で通訳の人から聞いた話ですが、最近ではオイルマッサージなどを行うマッサージ店も増えているとのことでした。

午後からは、国立リハビリテーションセンターの見学に行きました。盲学校がないラオスでは、点字を習得するために全国からやってくる視覚障害者はセンターに半年ほど滞在するとのことでした。また、英語用スクリーンリーダーを用いてのパソコン入力についても指導しています。プログラム終了後は、地元の学校で学ぶということです。

夕方、新たに出された腰痛の治療の要望も加えてのセミナー内容を実技担当で打ち合わせました。

26日、いよいよマッサージセミナー開講です。開校式の後、参加者に早速知識問題に取り組んでもらいました。簡単な解剖や生理学の問題です。通訳を介して問題を伝え、4択に手を挙げてもらうという方法を取ったのですが、問題の内容がなかなか伝わらず、またあまり医学的知識を持っていない参加者は四苦八苦していました。30問用意していたのですが、やむなく途中で断念せざるをえませんでした。次に、参加者の実技評価を行いました。第1回目の講習を受けた参加者5名、初めて参加する参加者5名です。また、参加者は、強度弱視・全盲のいずれかです。前日に受けたタイ式マッサージとほぼ同じで、どの参加者もそれなりにこなしていましたが、凝りを見つけて手技を行うことはできていないことが判明しました。1日目は、肩上部を用いての基本的な手技練習で終了しました。

27日セミナー二日目は、頸肩背部の手技について、拇指揉捏を中心に行いました。施術部位を明らかにするために、肩関節や脊柱の骨模型を用いて説明を行いました。解剖用語を伝えることが難しく、骨の部分を説明するにも、(骨の出っ張り・凹み)などというような説明の工夫も必要でした。3~4名のグループで講習を進めましたが、一人に説明している時も他の参加者の手が伸びてきて大変でした。意欲的に吸収しようとする参加者の意気込みを感じた瞬間でもありました。

28日セミナー三日目、日本按摩を体験してみたいという参加者からの声が多かったため、一人15分ずつではありましたが、我々指導者が全員に対して、上半身の按摩を行いました。同時進行で、骨模型の説明や参加者からの質疑応答の時間も設けました。多くの参加者は日本按摩の特徴でもある揉捏を気持ち良いと感じた様です。また、前日セミナー修了後来た患者さんに揉捏を取り入れた治療を行ったところ、大変好評だったと話す参加者もいました。

閉校式終了後セミナーのまとめを行い、帰国の途に着きました。帰りはバンコクで約5時間の待ち時間があり、空港内を見て時間を過ごしました。バンコク国際空港は、アジア一大きな空港です。通路の両脇には免税品店や土産店、世界各国のブランド品を扱う店が並んでいました。まるで巨大なショッピングモールです。29日6時55分6時間のフライトを終え、成田へ無事帰国しました。

今回のマッサージセミナーで感じたことを少し書いてみたいと思います。

まず、医学的知識をほとんど持たずにマッサージを行っていることが分かりました。解剖模型を寄贈してきたのですが、参加者は熱心に模型の観察をしていました。医療知識を身に付けたマッサージ師を養成するためのハード・ソフト面の整備が必要だと思います。それから、なんととっても参加者の学習に対する貪欲さを感じました。セミナー開始30分前には集合し、お互いに練習していました。また、9時から5時までのハードなセミナーにも関わらず、休憩時間を惜しんで練習に取り組む参加者もみられました。日本の学生達にも是非見習ってほしい姿でした。

このセミナーをきっかけに、日本の理療教育・さらには世界への理療の啓発について
考え、私自身、何ができるかを模索していきたいと考えています。

2007年度 AMIN ラオス訪問団調査班報告書

1. 概要
 2. 事前打ち合わせ
 3. コンケオ会長との会談
 4. 1日目評価会議
 5. 1日終了時加藤評価メール
 6. 2日目終了時の生徒から評価聞き取り
 7. セミナー2日目終了 評価会議
 8. セミナー3日目終了 評価会議
 9. 最終評価会議(帰国時)
- 資料1 ラオスの基礎情報と視察による情報

1. 概要

- 渡航期間:2008年3月24日(月)~3月29日(土)
- 渡航地:ラオス人民民主共和国(首都:ビエンチャン)
- 目的:昨年度に引き続きラオス盲人協会の主催する施術所を中止にラオスの視覚障害者マッサージ師に日本式按摩と医療按摩の知識の普及をはかる。また、AMIN活動の今後のラオス支援計画策定のための協議を盲人協会と行い、また現地調査を行う。
- ラオス盲人協会会長コンケオ氏との会談(3月25日)
- コンケオ会長経営のマッサージ施術所見学と現地マッサージの体験
- 第2回マッサージ・セミナー(3日間:3月26日~28日)
- 主たる成果:
 1. 昨年度のマッサージに引き続きよりアドバンスな日本式あんまマッサージの実技講習をおこなった。
 2. ラオスの視覚障害者のマッサージ関連の医療知識の一部と技量・技法を現地のマッサージを体験することにより評価できた。
 3. ラオスにおけるマッサージのニーズ(臨床的な知識を得たいこと、特に、さしあたって肩こり・腰痛)が調査できた。
 4. ラオス視覚障害マッサージ師の将来のリーダーと成りうる人物(Mr.Siphai)を特定できた。

5. ラオス盲人協会コンケオ氏を表敬訪問し、AMIN と同会の継続的協力関係を確認した。
6. 将来における BMIN や NISVA のような日本からの人的リソースのラオス長期滞在型プログラムに可能性があることが確認できた。
7. 長期養成コースをラオスで立ち上げるには、学校のような施設・ハード面の整備とソフトとしての系統だったカリキュラムの導入の重要性が確認された。特に、カリキュラムについては、言語・点字といったメディアおよびリテラシーの問題と、それ以上に全般的教育レベルとの整合性をどうとるかという課題があることが分かった。

2. 事前打ち合わせ

日時:2008年3月23日(日)17:40~19:10

場所:ホリデーイン東武成田 1F カフェレストラン『ラ・フロリダ』

参加者:武藤、前田、窪田、齊藤(4名)

配布資料:ラオス講習会予定表、実技評価表、知識評価問題

議題:講習会の進め方について

1、日程の確認

2、知識評価の確認

3、実技評価法の確認

(1)実技評価

日本按摩のできるものは日本按摩の評価もする。

(2)講習会

1)講習生 10 人に対し 5 ベッドあるため講習性の移動をなくす。

ベトナムでは講師、講習生ともに移動し收拾がつかなかった。

今回は講師が移動する。

2)講習生配分

前田 4 人、武藤 3 人、窪田 3 人

3)1 日目筋肉の触察

2 日目軽擦法、揉捏法の確認

3、コンケオ会長との会談

前日打ち合わせ

時間:09:00~10:30

場所:Ms.Kongkeo Tounalom 邸

参加者(10名):形井、加藤、武藤、窪田、前田、齊藤(日本人スタッフ)

Ms.Kongkeo、Ms.Sibanh、Ms.Somphavanh(ラオススタッフ)
Mr.Khamla(通訳)

1、自己紹介(日本、ラオス)

Ms.Kongkeo Tounalom (盲人協会会長・マッサージ研修センター会長)

推薦により会長を引き受けた。マッサージ指導は、各先生にお願いしており、自分はマネージメントや場所の提供をしている。

ラオスはタイ式マッサージが中心だが前回の AMIN セミナー後日本式を取り入れたところお客さんから好感触を受けている。私たちは、より発展したい。

直接ラオス盲人協会と AMIN との講習会形式のものは今回が初めてだった。成功することを願っている今後ともよろしくお願い致します。

Mr.Khamla Vilay(通訳、運営・会計担当 盲人協会 3 年目)

Ms.Sibanh Khoukham シーヴァン(経理、マッサージ担当)

講習生の面倒を見ている。AMIN の第 1 回目の講習会后、講習生から AMIN は次いつ来るのかと聞かれていました。

Ms.Somphavanh Sitthidet ソンパーヴァン(会長の秘書、職員)

3月の終わりで1年9か月

形井:

25日(本日)午前中は講習会のことを話し合い、時間があればそれ以外のことも話し合いたい。午後はナショナルリハビリセンター(NCR)と実際の治療現場、視覚障害者の学校を視察したい。AMIN 講師の先生方はマッサージ治療を受けてみたい。

カムラ:

視覚障害者の学校は NCR の敷地中にある。

コンケオ:

NCR で見て頂くのは、視覚障害者の小学校、そのほか聾学校、視覚障害者の学校がある。マッサージ治療は午前中にした方がいい。10:30分に予約する。コンケオさん経営のマッサージ店を予約。

加藤:

NRC に IT 訓練センターはあるか?

コンケオ:

視覚障害者向けのものがあり視察可能。

* NCR について

生徒で通うのが難しい者は NCR の宿舎に入る。

点字の読み書きができた後一般教育に行く。

点字教育の教科書は少なく、聞き取りで行う。

カリキュラムなど決まったものは無い。できると判断された時に卒業になる。

加藤：

眼科病院と併設された盲学校がありそこで教育された場所があったと思うが。

コンケオ：

トンポンにある(地名、ここから17Km 離れている)NCR とば別にある

形井：

開講式、閉講式のスピーチに政府関係者は来るか。

コンケオ氏：

労働省の方、局長は都合がつかなかった。

それ以外の人がある可能性がある(名前はまだ分からない)

形井：

閉講式に政府関係者を呼ぶべきかの判断はお任せします。

コンケオ：

ラオスでは参加の連絡をしても参加可能かどうかは分からない。

武藤：

去年の受講生の意見を訊きたい。ベッドを使うことで違和感がなかったか。

コンケオ：

日本式だったらベッドでもいいが、タイ式はベッドから落ちてしまう。

前回の経験から、日本式を加えるとお客さんからの評判が良かった。ラオス人の、肉体労働者で筋肉が固まっている人にはタイ式が、肉体労働者でない人には日本式が喜ばれる。

肩や腰が痛い人にはどこに注目して治療すればいいか、その理論を教えて欲しい。

武藤：

今回は、頸肩(くびかた)に力を入れてやる。

講師人と受講生の名前を知るために自己紹介ができればと思う。受講生はどこから来ているか。なぜ今回 5 人は新しいメンバーなのか。

コンケオ：

すべての受講生はビエンチャン市内から来ておりタイマッサージの経験がある。なぜ前回と違う受講生かというと、他の 5 人は地方に帰った。

ラオスは腰痛患者が多いためできれば今回頸肩だけでなく腰の講習もして欲しい。今後、お客さんに日本式だとアピールする。

4. 1 日目評価会議

26 日評価会議(セミナー1 日目・夕方)

日時:2008年3月26日(水)

場所:ラオプラザホテル1F 会場

参加者:加藤、武藤、窪田、前田、齊藤、カムラ(通訳)、カイクン(通訳)

窪田:

6人の実技評価をしたが、3番の Mr.Thongdy は5段階評価で2、しかし吸収が早い。
9番の Ms.Bay は日本按摩ができる。

2番 Mr.Vongsak、8番 Mr.Savatdy は親指全体を使っているため、矯正しなければ日本式揉捏ができない。

女性陣 Ms.Keo と Ms.Bay は指腹のみを使っているため問題ない。しかし頸肩にかけては難しい。

男性陣は日本式を取り入れっている。

全体的にひじもみの使い方を教えたらよい。

前田:

運動方がタイ式、ラオス式のものと思われるが沢山使われてる。急激な力で頸を引っ張ることは危険ではないかと思う。

カムラ:

頸の力の掛け方がつよいのは良くないと思う。

武藤:

タイ式が洗練されている。タイ式以外でもそれなりにできている。

他国でそうだがこの国で必要な事を尊重したい。ここにはこのやり方がある。

病気の関係の知識を入れる必要があるかもしれない。

カムラ:

ラオスには肩甲骨など医学用語に統一が無い。呼び方がそれぞれ違う。医学用語の場所ではなく“ここ”といったかたちで教えて欲しい。

難しいことを続けるとあきらめてしまう国民性がある。

文化の違いについて、骨折部位をマッサージして悪くなった場合受け手(患者)が悪くなる。

カイクン:

専門用語はわからないが受講生に教える場合、実際に触ってもらって教えるのがいい。

カムラ:

手掌軽擦の説明が良かった。ただ撫でるだけでなく、筋肉の状態をみる意味があった。

加藤:

知識評価問題について、基礎知識のない受講生にする問題ではない。

医学用語を問うよりも実技に関することを問うべきではないか。

単語ではなくメカニズムを問うべき。たとえば知識評価の問題 26~30。特に問題 30。

補足(形井)

評価の30問を9問までで打ち切ったのは、現地で形井が判断した。

評価自体が過去に習得している知識を確認するものであるが、習得量が非常に少ないことが明らかになったので、その時点で評価を中止した。それで、ラオスの受講生のレベルを評価するに十分であった。小中高の基礎学力、あん摩マッサージと基礎医学に関する知識そのものが評価以前の段階であり、その基礎学力や基礎専門知識の教授と習得、それらの上にある実技・臨床教育という組み立てをしっかりと行う必要があることが明確になった。

5. 1日目終了時加藤評価メール(AMIN日本待機組へ)

ラオス、ビエンチャン市より加藤です。

ただいまラオスのセミナー1日目を終え、評価会議も終わったところです。そこで何点か講師の先生方からの意見や変更点が出てきましたので、ご報告いたします。

1. 評価テストですが、30問のうち9問までしかできませんでした。ラオスの教育レベルやマッサージの養育過程を考慮し、講師の先生方と協議の上、評価試験は9問までで終了することにいたしました。

1. 1. 他の国との比較はできなくなりましたが、解剖用語の統一もなく、解剖学や生理学についてのカリキュラムというものをまったく持たない事情を考慮して、残りの日程は実技評価と手技実習に振り向けることにいたしました。

1. 2. ただし、質問の中の第26問以降の臨床問題、特に第30問は実技解説のなかでその内容にふれることといたしました。

2. LAMに寄贈した骨模型は大変好評で、休み時間や実習の順番待ちの間も受講生が群がるような状況でした。ともかく受講生には、このような教材(そもそも教材やカリキュラムという概念はないようですが)は新鮮な衝撃だったようです。

2. 1. その模型の件ですが、寄贈にあたってはラオスのシステムとしてAMINよりLABあてに、「無償にて寄贈された」証拠としての「無償である旨」と「寄贈物品リスト」が証拠として必要とのこと。これはAMIN推進委員会よりのメールでよいそうです。その

旨を書いた文書の添付メールで十分なようです。帰国後、形井先生を中心に対応していただければと思います。(注:最終日に現地にて対応済み)

3. 講師の先生方より AMIN 内の情報もなるべく BMIN に流して欲しいという強い要望がありました。日常的に AMIN の情報が BMIN に流されることになれば、よりコミットしやすくなるということです。開示できる情報はなるべく AMIN と BMIN で共有することが活動を円滑にすると考えます。

4. 当初の計画では、今回のラオスセミナーは前回に連続性を持たせる意味からも首から肩までに医療マッサージ手技のトレーニングという予定でしたが、国情からの「腰痛治療マッサージ」への要望が極めて高いということを勘案し、一部腰痛マッサージについても今回のセミナーに取り入れるよう予定を変更いたしました。

5. この国の養成システムは手技の一子相伝的なスタイルでカリキュラムという概念を持ちません。手技実習と基礎知識の教程のバランスが今後の最大の課題と考えられます。不十分なりにも養成カリキュラムという概念を持つ国とそうでない国における AMIN 事業展開の戦略を別個に考える必要があります。

5. 1. 個人的にはラオスのような国に、今回のような「評価問題」を実施することの検討を事前に十分に行わなかった点は最大の反省点です。

6. これも個人的観察ですが、受講生は医療関係知識の吸収に貪欲で、安み時間にも講師を困んで「梗塞」に起因すると思われる症状やその他の病的症状はどこに病因があるのか、その症状にはマッサージは有効なのか、あるいは有害になる危険性はないのかといったことを質問攻めにしていました。

7. 話が飛ぶようですが、上記のような諸問題への対応のためにもアジアからの留学生のためのシステムを大学として早期に確立させる。

1. 通訳の問題というよりも、たとえば「ひざ」や「肩」といった一般的身体部位にしても同じラオス語の中でも統一はゆるく、「肩甲骨」って何というレベルです。その中で通訳の方々は実にながらばってくれていると思います。

評価を 9 問で、中止したことは通訳からの「これ以上やっても彼らにとっては壁に頭をぶつけて血を流しているような感覚だろう」という通訳スタッフの意見と私の「否定的」意見(帰ってから説明します)と 3 先生の協議によりやめることとなりました。武藤先生は

AMIN に了解が得られるか気にしているようなので、私からメールで伝えますと納得してもらいました。

今回のラオスセミナーでは「調査班」と「講習班」を明確に分けなかったため、講習担当の先生から、視察はいらないから実習の時間をもっととって欲しいという実に教育熱心なご意見もいただきました。AMIN 側の事情も説明しておきましたが、今後の BMIN との連携関係構築のための参考意見としてうけたまわりました。

国によって政府や NGO との付き合い方にもそれぞれ国柄があるようで、開会式に列席予定の政府関係者には「挨拶」はひかえさせて欲しいというコンケオ会長からの要請が事前にあったり、結局当日は「交通事情」を理由に当人が「到着」しなかったり、いろいろありました。

6. 2日目終了時の生徒から評価聞き取り

2008 年 3 月 27 日

ラオス講習会質問事項(2 日目までの受講生の反応)

武藤: 今日の感想を教えてください。

Bay: 感じている事は今まで経験しなかったことをした。

Monekham: 共通する事もあった。押しつけて動かすことはタイ式、ラオス式も押し付けて動かす。それは局所だけでなく全体に効く。

武藤: 模型を使ったことに関してはどうか?

Vongsouvanh: 脊椎の模型を見て、今までは骨や人体や筋肉のことを考えていなかった。今までは揉み方だけだった。実際に触って筋肉と神経の組み合わせが分かった。今までバラバラにしか理解していなかった。

武藤: 頸の揉み方について。

Thongdy: 頭痛、二日酔いの方にゆっくり施術するとお客さんは気持ち良くなるのではないか。

武藤: 頸の小さな関節を伸ばしている手技を今回紹介したが・・・。

Thongdy: もう少しやって欲しいと思うくらい気持ち良かった。

Siphai: いままで知る事の出来なかった骨のことに知ることができた。できれば頭蓋骨、腰から足までの骨の数などを教えて欲しい。

Q: Vongsouvanh: われわれのラオ式、タイ式マッサージと日本式マッサージの違いは？
どちらが上か？

A: 窪田: 日本式は(この後電話が来たため記録出来ず)

7. セミナー2日目終了 評価会議

2008年3月27日(セミナー2日目 夕)

評価会議

出席: 武藤、窪田、本田、加藤、斉藤、シーバン、ソンパーバン、カムラ、ポンケオ、カイケン

カムラ:

生徒から30分くらい揉んで欲しい。最初から最後まで日本按摩はどうしているか見たい。グループリーダーに受けてもらってリーダーが他に教える形で良い。始まり方と終わり方(流れを知りたい)

武藤:

15分で受講生全員を揉み、残り時間を腰から下の骨の治療の説明をする。

カムラ:

全員が日本の先生に揉んで頂くことはとてもありがたい。

ポンケオ:

ある症状に対しての治療法を教えて欲しい。

例えば脳梗塞などに対する施術や原因の知識に対する要求が受講生からあった。

カイケン:

質問でもう少し骨の説明があるといい。模型を観察して質問をする時間が欲しい。

前田:

受けている人と説明する人で先生を分ける。

カムラ:

脊椎の両サイドにあるものは筋肉でなく靭帯だと思っていた。

椎骨の数など、マッサージの技術だけでなく解剖の知識を得ることができた。

前田:

知識欲があってついつい沢山の解剖学的知識を伝えることとなった。

加藤:

模型を使って知識を伝えるのは形井にお願いします。

質問を出すまで行きつかない受講生もいるのだろう。

カムラ:

重要な知識の段階を決めて欲しい。

若い女性などの肉体労働者でない人に対する技術が欲しい。

日本の人の間に入ってわかったのは、日本人の立てるプランが大きく、すべてが計画通りいなくてもラオス人としてはプレゼントの様な技術をいただいたと感じる。

窪田：

どのように日本式をするかを3人で打ち合わせをする。

8. セミナー3日目終了 評価会議

最終日評価会議

日時：2008年3月28日(金)12:06

場所：ラオプラザホテル(1F会議室)

出席者：通訳3人、シーバン、コンケオ、日本人6人(11人)

形井：

- 1、全体を通してどうだったか？
- 2、講習の内容はどうだったか？
- 3、講師に対してどうだったか？

コンケオ：

各受講生から背骨の模型を触ることができたから前回より良かったと聞いている。しかし講習時間が短かったとも言っていた。

解剖学的知識の説明がもっと欲しかった。解剖学的知識が何より喜ばしかったようだ。ウォンサックさんは生まれつき全盲で骨模型を触って理解が深まった。もっと勉強したいと言っている。お客さんにここが痛いがどうなっているかと言われるが、その説明ができると思う。

2回目のこの講習会は大成功だった。

形井：

通訳の方は内容はどうだったか

カイクン：

受講生は熱心だった。武藤チームのシーファイさんたちは骨の知識を知りたがっていた。もっと下半身も教えて欲しかったといった意見が多かった。

ポンケオ：

みんなバラバラの質問をするくらい、熱心に知りたがっていた。

質問に答える前に自分の質問をする。視覚障害なので触ることで勉強が進んだ。先生方に見ればあまり進んでいなかったと思うが、受講生としてはかなり進んだと思う。

コンケオ：

17歳のBayさんは頸部痛のお客さんにどんな手技があるかを訊いたが答えってもらえなかったのが、残念だったようだ。あまり重要な質問ではなかったらどうかと悩んでいた。

加藤：

実技系の授業で言葉も違っているのに、どのように伝わるか不安であったが、実習では手技がかなり伝わっているのが印象的だった。

形井：

去年はIAVI、ADDPが事務を進めた。今回はAMIN事務局が進めたが今回はどうだったか？

コンケオ：

1回目はすべての準備をして頂いたが、彼らにあまり情報をもらえていなかった。変更が多くて予定変更に対応できない失敗があった。

シーバン：

今回の講習会は前回と違うのは通訳がマッサージ師になれるくらい勉強したことだと思う。今回の講習会は効果があった。

前田：

私は教師として9年目だがスタッフのおかげで良い講習会にできた。

武藤：

昨年受講した5名の受講生は洗練された技術を持っていた。その他の受講生の為に受講の組み立てが難しかった。しかし前者の5名が手伝ってくれたのでうまく進んだ。

昨年講習した日本按摩の技術を使っていると聞いてうれしかった。

コンケオ会長にお願いがある。肩こり腰痛に対する施術をおしえたが、実際にお客さんに使ったものがどうだったかを正直な気持ちでAMINに伝えて欲しい。

コンケオ：

1か月後受講生に電話で確認して伝える。識字能力が低いので電話で確認する。

窪田：

今後どういう場にして欲しいか？

コンケオ：

今後は初日の夕食で話した通り。

ラオス視覚障害者の自立の為に職業訓練センターなどの施設にサポートして欲しい。

形井：

施設支援はカリキュラムを立てる必要がある。

日本財団とAMINは今年4月～3月まで活動内容を検討する。

AMINが3回目の講習会ができるように前向きに検討したい。

9. 最終評価会議(帰国時)

ラオス海外講習会最終評価会議

日時: 2008年3月29日(土)07:40~08:15

場所: 成田空港第1ターミナル1F

参加者: 形井、加藤、武藤、窪田、前田、齊藤(6人)

武藤:

今後 AMIN はラオスに力を入れるべきだと思う。

形井:

ラオス・カンボジアに支援を行うのが良いかも知れない。

ラオスは Mr.Siphai がリーダーシップをとり進めていく形に支援したい。

窪田:

盲人ホーム(訓練センター)を作り免許は取ったが技術が足りないものを受け入れて再教育する拠点をビエンチャンに作りそこから他地域へ波及させるのはどうか。

形井:

青写真を作って日本財団に提出したい。

4月中に4か国(カンボジア、ベトナム、ラオス、モンゴル)へ行ったメンバーを集めて今後の戦略を練る必要がある。

資料 1

[ラオスの一般事情]

○人口:約 580 万人(2006 年)[外務省資料]

○面積:24 万平方キロ:直観的には、「本州ほどの面積に、北海道の人口と同じ全人口が住んでいる。」

○一人あたり GDP:678 ドル(2007 年)

○通貨:キープ(Kip) 1ドル=約 8,700 キープ(2008 年 3 月)

○障害者人口:推定?万人(対人口比約 8%:日本障害者リハビリテーション協会)

約 7 万人(2005 年国勢調査:ただし、これは人口の 1.2%に相当し、過小評価ではないか:中村信太郎氏による)

○視覚障害者人口:障害者人口の約 2 割と推定。1.4 万人?(対人口比約%)

○経済概況:実質 GDP 成長率は毎年 7%前後。人口の 70~80%は農業従事。65 歳以上人口は 4%、特殊出生率は 4.5。障害者は身体的状況から不利。さらに、障害者は教育へのアクセスも限られているので、事務職・デスクワークにも不利な立場にある。

国民のほとんどが農業か単純肉体労働従事者のためか、特にマッサージへは腰痛・肩こりへの処置のニーズが高い。

[コンケオ会長経営マッサージ施術所]

(1) ラオス式マッサージのコースを体験(一人約 1 時間半)

(2) ひとり 4 ドルマッサージ師に直接支払う(相場は 1 ドル?、現地のランチが 1 ドル)

(3) セミナー受講生によれば、1 日の平均客数は 2 人から 4・5 人程度

[NRC(国立リハビリテーションセンター)視察]

(1)「盲学校部」の見学

・教師は高等学校卒業後 1 年の教員養成コースまたは 3(2?)年の教員養成コースの出身者(教師も視覚障害者であった)

・ラオスでは「教員養成校」は日本の旧制「師範学校」のような位置づけ。しかも、school と college があり、一部高等教育カテゴリ。1 年コースで初等学校の教師に、3 年コースで中等学校の教師になれる。

#ラオスの教育制度は幼稚園・小学校(5 年)・中学校(3 年)・高等学校(3 年)・大学(5 年:1 年教養+4 年専門課程)・職業訓練学校(3~6 年)

*ラオスの公立大学は「国立ラオス大学」1 校のみ。

(2)ON-NET の IT 室の見学とラオス点字作成の視察

(3)NCR には聴覚障害や肢体不自由(地雷被害なども含む)の生徒もいる